



競争力強化へ働き方改革を推進 1万1000アカウントを想定したDaaSを導入

導入実績が豊富で柔軟性が高いM³DaaS@absonneを採用

背景

競争力強化のためオフィス改革とIT環境の再構築を一体化して推進している。施策の一つとして、デスクトップ仮想サービス(DaaS)を活用。社員が場所や時間に縛られず、創造的に働ける環境を構築したいと考えた。



全日本空輸株式会社
業務プロセス改革室
イノベーション推進部
業務イノベーションチーム
リーダー
小林 広典氏
※所属は当時のもの



全日本空輸株式会社
業務プロセス改革室
企画推進部
企画・業務チーム
高島 志郎氏



全日本空輸株式会社
業務プロセス改革室
イノベーション推進部
業務イノベーションチーム
吉元 恭香氏



全日本空輸株式会社
本社：東京都港区東新橋1-5-2
発足：2012年(持株会社制への移行により新生全日本空輸株式会社としてスタート)
資本金：100億円

ソリューション

DaaSとして、導入実績が豊富で、ユーザーの要望に応じて機能追加が柔軟にできる、新日鉄住金ソリューションズの「M³DaaS@absonne」を選定。ユーザビリティの向上や2要素認証によるセキュリティ強化などを行う。

成果

2014年4月時点では国内およびアジア地域を中心に約3000人が利用中で、新しい働き方が急速に広がっている。オフィス改革全体の効果でコスト競争力も強化。今後はグループ企業を含む1万1000アカウントに利用を拡大する。

デスクトップ仮想サービスで働き方改革の推進を検討

規制緩和により競争が激化する航空業界で「世界のリーディングエアライングループ」を目指す全日本空輸(以下、ANA)。競争力向上のため、マルチブランド戦略の強化、グループ経営体制の改革、構造改革によるコスト競争力の強化を進めている。

ANAがその戦略に基づき、オフィスで働く間接部門の働き方改革を本格化したのは2011年のことである。オフィスの机に設置したPCを社内ネットワークに接続して業務を行う従来のIT環境を撤廃。クラウドサービスやインターネット、スマートフォンやタブレットのような進歩の早いコンシューマITの技術をベースに、社員が場所や時間に縛られず、より創造的に働ける環境を用意することで、業務のイノベーションを実現しながら、ワークライフバランスをこれまで以上に追求できるようにしたいと考えた。

導入実績などを基にM³DaaS@absonneを採用

要件を基にANAは、オフィスのPCを無線LANでインターネットに直接接続するネットワークやスマートフォンによる内線電話などを採用するとともに、いつでも・どこでも・どのデバイスでも安全に業務を行えるソリューションとして、DaaSの導入を検討。複数のサービス事業者の中から、豊富な導入実績を持ち、多くの技術的なハードルを乗り越えてきた新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)の「M³DaaS(エムキューブダース)@absonne(アブソンス)」を選定した。

2013年1月に開始した導入プロジェクトではアジャイル開発的な手法を採用。少人数の利用者で試験利用を行いながら、要望を洗い出した。NSSOLはそれらANAの要望を基に、ユーザビリティの向上や2要素認証によるセキュリティ強化などを行った。

2016年までにグループ企業を含む約1万1000アカウントに利用を拡大

M³DaaS@absonneによるANAのデスクトップ仮想環境は、2013年3月にパイロット運用を開始、5月には本格運用に入り、電子メールやOfficeソフト、出退勤管理などの基本的なアプリケーションを利用可能にしている。2014年4月時点では国内およびアジア地域の事業所10カ所を中心に約3000人が利用しており、2016年までにグループ企業を含む約1万1000アカウントに利用を拡大する計画だ。

ANAはBYOD(私物端末の業務利用)の推進やオフィスのフリーアドレス化、ペーパーレス化といったオフィス改革全体の効果でコスト競争力の強化も実現している。今後は、デスクトップ仮想環境を利用できる事業所や対応業務アプリケーションを拡充するなど、働き方改革の加速やワークライフバランスの一層の追求を進めていく。

Key to Success

ANAが、DaaSを導入した背景は、オフィスで働く社員の働き方改革を推進することである。

業務プロセス改革室 イノベーション推進部 業務イノベーションチームリーダー(当時)の小林広典氏は「当社は、競争激化に対応して、社員の働き方を含む会社全体を構造的に改革しています。その施策の一つとして、社内情報システムについても、2年サイクルで新しくなるコンシューマITの技術のスピード感を取り込むと同時に、社外で通常利用しているIT環境のまま社内で働くという逆転の発想でIT環境を再構築して、コスト競争力を飛躍的に高め、社員の働き方を意識の部分から変革したいと考えました」と語る。

同社はオフィス改革とIT環境の再構築を一体化して進めた。

「オフィスの机にPCを置いてネットワークケーブルを張る従来のIT環境では、社員を机に縛り付けてしまいます。フリーアドレスにも対応可能なレイアウトへ変更するオフィス改革と連動して、オフィスの外でも中でも無線LANでインターネットに接続して業務を行える環境を構築することにしました」(同)

DaaSを活用すれば、仮想化技術によって、社員はいつでも・どこでも・どんなデバイスからもインターネットで自分のデスクトップに接続して安全に業務を行えるようになる。

複数の候補からANAが選択したDaaSが、NSSOLのM³DaaS@absonneである。

業務プロセス改革室 企画推進部 企画・業務チームの高島志郎氏は「自ら検証を行ったほか、同サービスのユーザー企業に伺うなどで慎重に評

価をしました。NSSOLには成功事例だけでなく、失敗しながらそれを乗り越えた経験も多数あります。同社なら当社の要望に対応するDaaSを提供してくれると期待しました」と語る。

M³DaaS@absonneは、2013年3月に200人でパイロット運用を開始。同年5月には本格運用が始まった。2014年4月時点では約3000人が利用する。

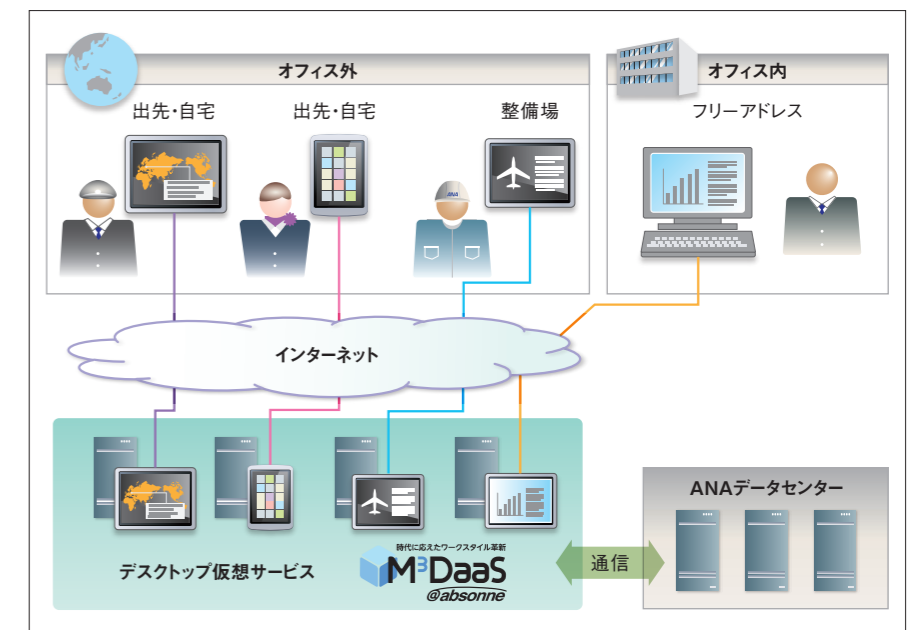
要望に対応して数々の機能を強化 ユーザビリティにも妥協なし

導入プロジェクトの間、M³DaaS@absonneはANAの要望に対応して数々の機能強化を行った。高島氏は「ユーザビリティの観点でも、利用者の立場で詳細に課題を洗い出し、一つずつ地道に解決して妥協のない良いものができました」と述べる。

導入による成果は大きい。業務プロセス改革室 イノベーション推進部 業務イノベーションチームの吉元恭香氏は「以前は、空港や各地の事業所で打ち合わせを行ったあと、オフィスに戻りPCで作業を行うことも珍しくありませんでした。現在は、インターネット接続と指定のソフトウェアを導入した端末があれば、どこからでも自分のデスクトップにアクセスできます。専用端末も不要なため、在宅勤務制度を利用するときや災害で出社できないときも自宅のPCで仕事ができます」と語る。

小林氏は「利用者の評判が社内に広まって、導入を希望する事業所も増えています。DaaSで利用できる業務アプリケーションを拡充してほしいという声も出てきました。当社はこれからも、コンシューマITのスピード感でシステムを強化していきます。NSSOLには今後も迅速な技術支援をお願いしたいと思います」と述べる。

■全日本空輸(ANA)が導入したM³DaaS@absonneの概要



■コアテクノロジー

クラウドサービス、DaaS、デスクトップ仮想化(VDI)、タブレット、Citrix XenDesktop、BYOD

■システム概要

- サービス：M³DaaS@absonne
- ユーザー：約3000人